

第1回定例会あいさつ（施政方針）

令和7年第1回広川町議会定例会を招集しましたところ、公私共にご多用中にもかかわらず、ご出席賜り誠にありがとうございます。

本定例会において、令和7年度の当初予算をはじめ、町政の重要案件のご審議をお願いするにあたり、町政における私の基本的な考え方を申し上げます。

【1. はじめに】

私が就任当初から掲げているまちづくりのビジョンは、「職・住・育プラス遊」近接型によるまちづくりです。

まずは、多くの方が安定した収入を得られる、雇用や仕事に関する環境を整え、幅広い世代が暮らしやすい住環境の整備を図り、未来を担う子どもが育つ環境づくりを進める。くわえて、少しの「遊び心」をまちづくりに取り入れる。そうして実現したいのは、人々が幸せを感じられる暮らし、いわゆる「ウェルビーイング」のまちづくりであります。

令和7年度も、この「職・住・育プラス遊」のまちづくりを進め、広川町第5次総合計画が掲げる将来像「世代を超えて住み心地の良い、温もりと笑顔あふれるまち」の実現に向かって、引き続き、全力

で取り組む覚悟でございます。

【２．現状認識】

しかしながら、町を取り巻く状況の厳しさもまた、依然として、危機感を緩めることができない状況にあります。

エネルギー価格の高騰、物価の高騰は未だ先が見通せません。世界情勢の不安定さが増している中で、これからも、住民生活はもとより、農業や商工業にどのような影響を及ぼすのか。もちろん、一転して事態が好転することを願ってやみませんが、決して楽観視できる状況にはないと考えています。

少子化も、依然として喫緊の課題です。全国で去年１年間に生まれた子どもの数は、速報値で 72 万人余りと、統計を取り始めて以降、最も少なくなったと発表されました。従来 of 国の想定より、15 年も早く、73 万人を下回ったとのことで、想定外の速さで進む少子化は、私たちの社会が持続可能であるために、最大限の努力をもって解決すべき問題であると思っています。

本町における出生数も、去年はやや上昇したものの、コロナ禍前の水準には戻っていません。その要因には、若い世代の経済的な不安や、婚姻数の減少をはじめ、地方から都市部への人口流出が続いている

ことなど、さまざまな要因が絡み合っているものと認識しています。もはや、地方だけで解決できる問題ではなく、国と地方がともに手を携えて、総合的に取り組むべき問題であると考えています。

石破政権は、昨年 12 月、これまでの地方創生の反省を踏まえ、「人口減少が続く地方を守り、若者・女性にも選ばれる『楽しい地方』を作り出し、誰もが安心して住み続けられる地方の構築に取り組む『地方創生 2.0』を起動させる」と表明しました。

特に、地方創生 2.0 の基本的な考え方には、「当面は人口が減少するという事態を正面から受け止める」とあります。これは、地方創生に対するこれまでの国の姿勢とは異なり、地方の現実に向けようとするものであり、大きな転換であると受け止めております。さらに、持てるポテンシャルがまだまだ眠っている、それぞれの地域の経済・社会、これらを支える人材の力を最大限に引き出す政策を強化することで、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていくと示していることは、本町にとっても大きな追い風になりえます。

これらの現状認識を踏まえ、令和 7 年度においても、町を取り巻く社会情勢の変化や、新たな国の動きを敏感に捉えつつ、直面する課題

に果敢に挑戦するとともに、着実な町政運営を図っていきたいと考えております。

【3. 令和7年は人材育成元年】

私は、昨年、令和6年を大雨災害からの「復興元年」と位置づけました。

道路や橋梁の復興工事の迅速化を図り、令和7年度中の完了を目指す」と表明しましたが、関係各所のご協力のおかげもあって、多くの工事が完了し、残りの工事も令和7年度末での完了を予定しています。

もちろん、福岡県が主体となって取り組んでいただく、広川の河川改修事業については、5カ年事業でありますので、こちらについては引き続き、町として協力できることを、しっかり取り組んでまいります。

本年は、復興事業にも引き続き取り組みつつ、私は、町職員に対する年頭挨拶において、令和7年は「人材育成元年」とすると伝えました。

この人材育成には2つの意図があります。1つは、未来の地域社会の担い手を育てる人材育成であり、もう1つは、行政運営の担い手で

ある町職員の人材育成であります。

【（１）地域社会の担い手育成】

まず、１つ目の、未来の地域社会の担い手となる人材の育成については、特に、「こどもまんなかプロジェクト」を、さらに強力に推進してまいります。未来の地域社会において、経済や福祉を担っているのは誰か。それは今、目の前にいる子どもたちであります。人間は誰もが歳をとり、いつかは誰かの手助けを必要とする時が来ます。10年後、20年後、地域で医療や介護を担う人材がいらない、あるいは農業や商工業を担う人材がいらない、という状況は、想像するだけで恐ろしいことです。住民が幸せな暮らしを送ることなど出来ません。目の前の子どもたちは、いつか必ず、私たちが頼りにするべき、未来の地域社会の担い手であることを認識し、しっかりと育てていくことが必要なのです。

昨年12月に、「こどもまんなかアクションプラン」をまとめました。令和7年からは、いよいよ、その実行を本格化させていきます。

また、まもなく改訂が終了する「広川町人口ビジョン」においても、長期的な人口推計では、一定程度人口は減少するとしていますが、重要視しているのは、人口を増やすことを至上命題とするのではなく、

どのようにして活力ある地域社会を維持するか、どのようにして住民が幸せに暮らす地域を作っていくか、であります。

地域づくりは人づくりでもあります。人づくりは、まずは、この町で育つ子どもたちが、乳幼児期から青年期にかけて、充実した生活を送ることから始まります。そして、成長した後、一定数が町に残って、同世代でコミュニティを作る。進学や就職で町を出た人たちも、結婚や出産などのライフステージ転換のタイミングで、広川町に残る同世代のコミュニティに導かれて、再び合流するように地域社会の担い手となっていく。そして次の世代が生まれると、また最初に戻って、その子どもたちが青年期まで充実した生活を送る、というサイクルを、世代を超えて、何回も何回もまわし続けることが必要なのです。

こどもまんなかプロジェクトは、このサイクルがまわり出すための最初の一押しであり、次のステップがまわりだして、サイクル全体がまわり出すまで、途切れなく、必要な施策を展開していくことが求められます。

これは非常に困難な道のりではありますが、先ほど申し上げた、国が提唱する「地方創生2.0」の基本的な考え方とも、軌を一にするものであり、国が予算的にも人員的にも強力に進めようとする姿勢

とも連動し、本年からしっかり取り組んでいきたいと考えています。

【(2) 町職員の人材育成】

そして、もう1つの町職員の人材育成についてですが、こちらはまもなく、今後の羅針盤となる「広川町人材育成基本方針」が完成します。昨年、若手から管理職まで、全職員を集めたワークショップなどを開催して、目指すべき組織や職員像とは何かについて、議論を重ねてまいりました。そこで出された意見などを基盤として、理想の職員像をはじめ、各職位ごとに身につけるべき知識や態度などを明らかにしました。「広川町人材育成基本方針」には、職員の採用から定着、配置、能力開発、人事評価などの原則が示されており、今後はこの基本方針に基づき、具体的な取り組みを展開していくことになります。

これらは、私が目指す「チームで仕事をする組織づくり」に向けた職場風土改革の一環でもあります。目指すべきところは、町民の皆様に貢献できる人材の育成です。令和7年からは、いよいよ町職員の人材育成も本格化させていきます。

皆様もご承知の通り、人材育成には10年単位の長い時間がかかります。すぐに成果が出るものではないため、取り組み続けるには勇

気が必要です。しかし、何もしないままでは、ありたい未来が実現することなど、絶対にありません。私たちは、10年後、20年後のありたい未来を先に描き、そのために、今、何をすべきかを逆算して考え、勇気を持って行動を起こすしかないので。令和7年は、10年後、20年後のありたい姿に向かって踏み出す、その元年とすべきであると考えています。

【4. 町制試行 70 周年の節目にあたり】

奇しくも、令和7年は、広川町の町制施行 70 周年の節目の年であります。今日の広川町の姿を築いてこられた、多くの先人の皆様のご努力とご労苦に、心から敬意と感謝を表したいと思います。

多くの町民の皆様と、記念すべき節目の年を祝いたいと思っておりますが、それと同時に、今日の私たちには、次の 80 周年、90 周年、さらにその先の 100 年を見据え、次の世代に、この町を引き継ぐ責務がある、との認識を深く刻む必要があります。

私はこれからも、これまでの町民の皆様、今を生きる町民の皆様、そして未来の町民の皆様のために、難しい課題にも、強い気持ちで挑戦したいと考えておりますので、新しいまちづくりのために、皆様のお力添え賜りますよう、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

す。

【５．まとめ】

結びになりますが、本定例会に提出している令和７年度予算は、一般会計で約 95 億 3 千万円と、災害復興で膨らんだ昨年度予算に比べても約 4,700 万円の増、率にして 0.5%の増加となりました。やはり人件費や物価の高騰が町の財政を押し上げており、さまざまな施設の更新時期を迎えていることとも重なり、難しい舵取りを迫られています。それでも、町職員と一丸となって乗り切ってまいりたいと考えておりますので、議会の皆様におかれましては、ご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

そのほか、議案等 25 件をご提案申し上げます。議案等の提案理由につきましては、後ほど詳しくご説明申し上げますが、慎重審議の上、全議案ともご決定いただきますようお願い申し上げ、私からの挨拶に代えさせていただきます。